



アメリカ・イエローストーン国立公園の火山活動活発化

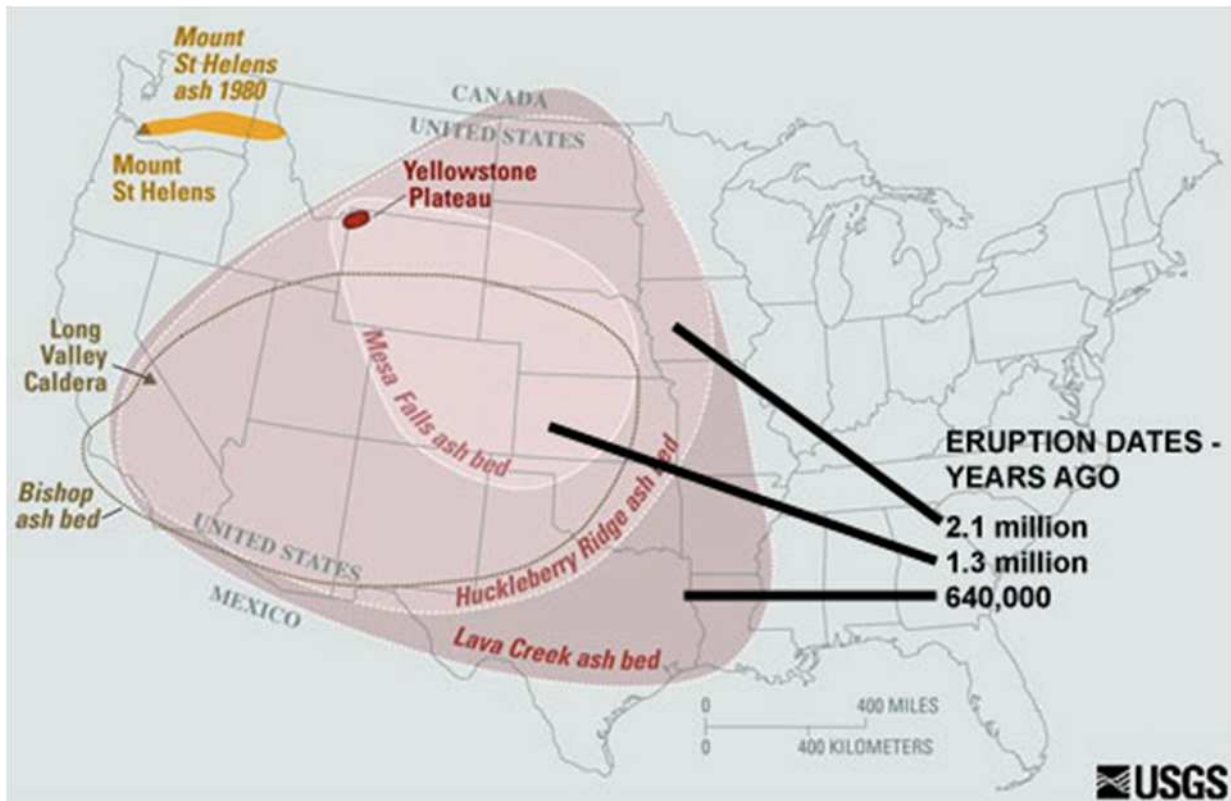
アメリカ中西部を代表する観光地の一つであるイエローストーン国立公園で、地震が頻発しています。イエローストーン国立公園周辺では、今年6月以降、1,200回を超える地震が観測されています。そのうち地震の規模が最も大きかったのは、6月15日（現地時間）のM4.4の地震で、7月23日現在も活発な地震活動が続いています。

イエローストーンといえば間欠泉で有名ですが、火山学の世界では、世界最大級の噴火をこれまで知る限り3回（210万年前、130万年前、64万年前）引き起こしている世界一とも言える活火山なのです。現在は次の噴火の準備の最終段階と考えられています。ただ、イエローストーンも将来噴火する事は確実ですが、「いつ」については誤差が数万年はありますから、現時点で非常に噴火が切迫しているという事ではありません。この点は十分ご理解下さいませようお願い致します。確実な事は2010年代に入り明らかに活動が活発化してきたという事です。

イエローストーンには、地下20~50キロに世界最大のマグマだまりがあると米国地質調査所（USGS）は発表しており、2010年には1年間で2,500回近い地震が発生した事もあります。

もしイエローストーンが噴火すると、それは北米の動植物がほぼ絶滅するほどの被害を生じます。北アメリカはそのほとんどの地域が火山灰に覆われ、人が住める状況ではなくなると考えられています。色々な自然災害のうち、最も被害が大きいのは地震や台風ではなく（小惑星の地球への衝突を除けば）実は火山噴火なのです。

下の図は米国地質調査所（USGS）がまとめた過去の噴火における火山灰の堆積状況です。



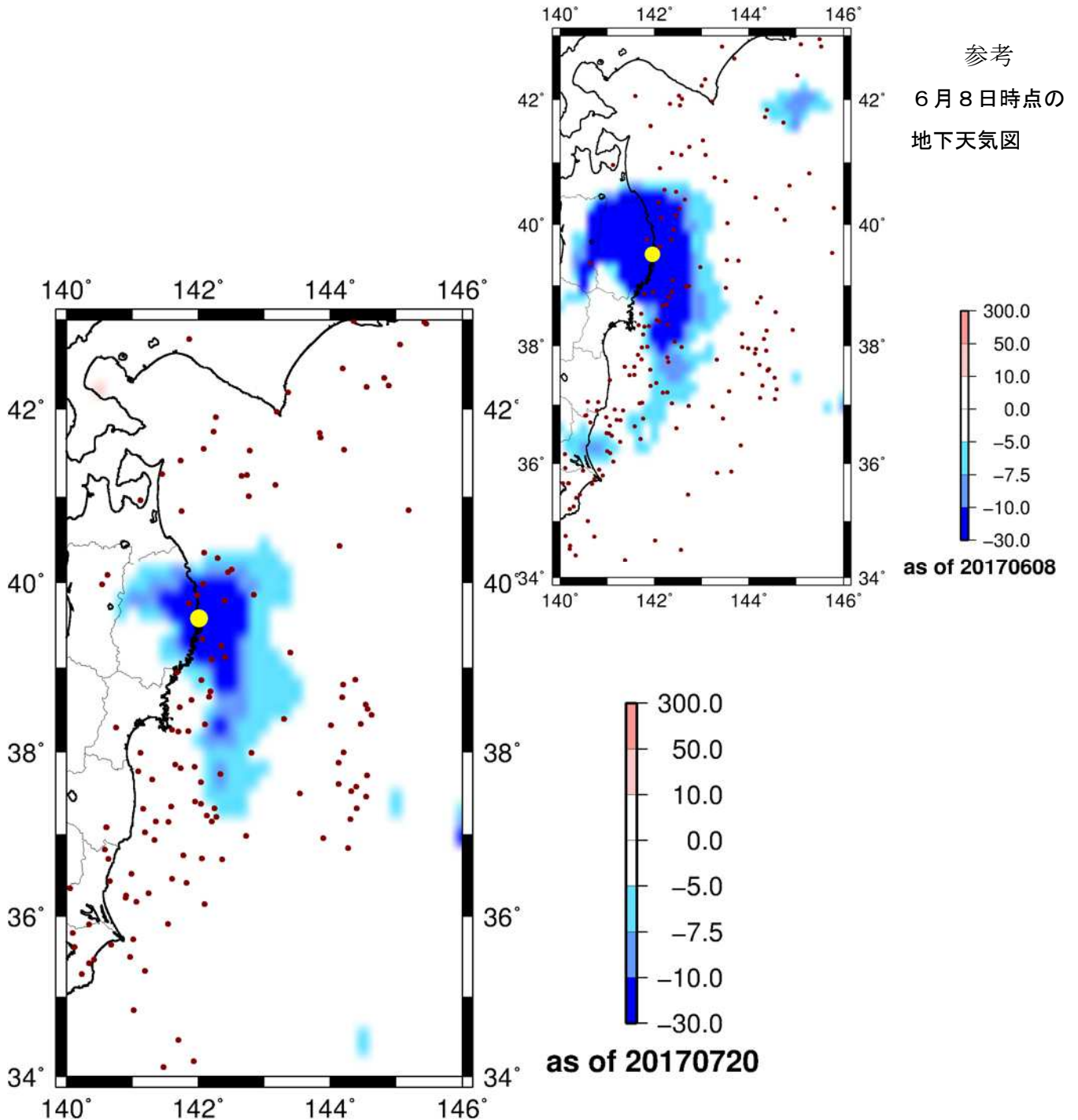
もし、現在イエローストーンが噴火すると、火山の周囲1000kmに住む人は全滅と考えられているのです。地球は時にこのような事を行う事があるのです。



東北地方沖の海域をメインターゲットとした地下天気図®

6月12日付のニュースレターに引き続き東北地方海域をターゲットとした地下天気図解析です。この一ヶ月少しの期間で、静穏化がピークを超えた可能性がある事がわかりました。

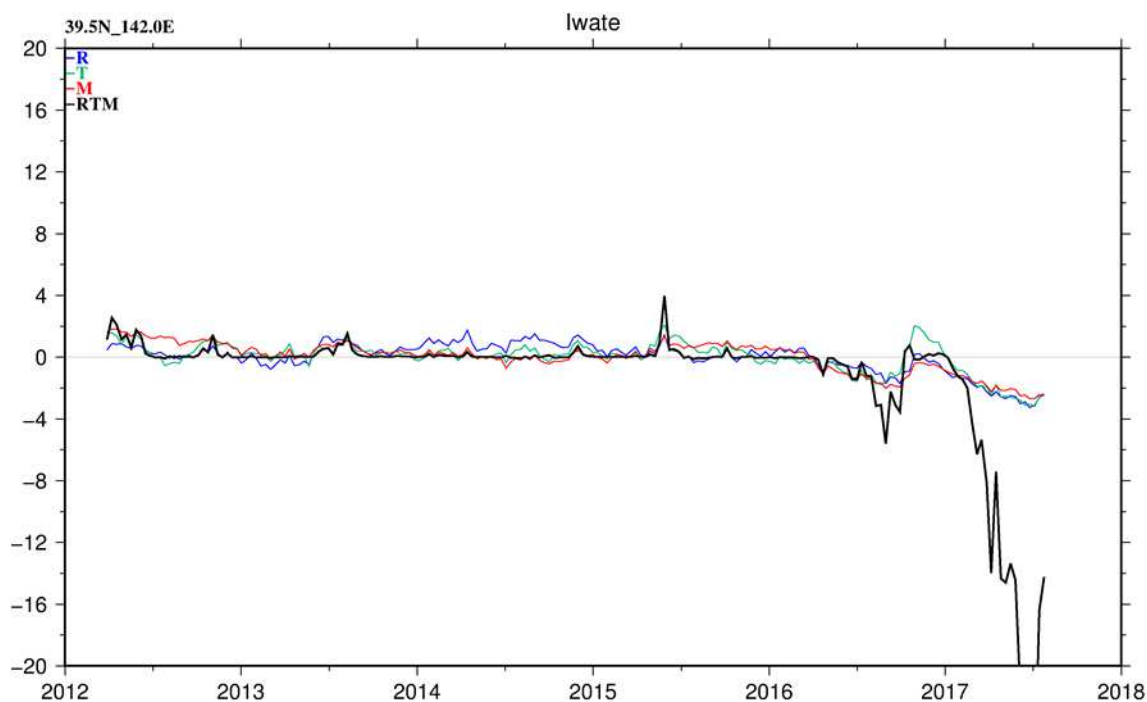
過去の経験則が正しければ、現在静穏化がまだ残っているのですが、昨年11月22日に福島沖で発生し、津波警報が出されたマグニチュード7.4のような地震がこの地域で発生するのはもう少し先と考えられます。ただ経験則が100%正しいという事はありませんので、みなさまにおかれましては、「東北地方北部では、M7クラス（ないしそれ以上の規模）の地震発生準備がかなり進んでいる可能性が高い」というようにお考えください。



7月20日時点の地下天気図。6月の時点に比べて青い領域が少し小さくなっている。



前のページの大きな地下天気図が最新の7月20日時点のものです。図中の茶色の丸が前回の解析以降に発生した地震の震央を表しています。また図中の黄色の丸の地点（北緯39.5度、東経142度）の地下天気図の時間変化曲線（RTM曲線）もお示します。



岩手県海岸沿いの地点におけるRTM値の時間変化。少し地震活動が回復傾向にある事がわかる。

ちなみに、地震は青色の異常の中心より、異常の周辺部ないしその少し外側で発生する事が多いという事が経験的にわかっています。